

神戸女子大学古典芸能研究センター 令和5年展示

写真家 佐藤順子の視た

阿波

# 人形浄瑠璃

期間.. 令和5年2月6日(月)

~ 3月31日(金)

土・日・祝日休室

時間.. 午前10時~午後5時

場所.. 神戸女子大学古典芸能研究センター

神戸市中央区中山手通2丁目23-1

神戸女子大学教育センター2階

TEL 078・231・1061

協力.. 佐藤順子



太夫と三味線

\*新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、今後の状況によりやむを得ず中止する場合がございます。最新情報はホームページにお知らせいたしますが、念のため事前にお問い合わせください。



犬飼農村舞台での奉納公演 (1997年11月3日)

写真家 佐藤順子の視た

# 阿波人形浄瑠璃

徳島県徳島市八多町の五王神社では、毎年十一月三日、境内にある犬飼農村舞台において人形浄瑠璃芝居が奉納されます。神戸女子大学古典芸能研究センターでは、昨年、神戸在住の写真家 佐藤順子氏より、この人形芝居を撮影した一連の作品を受贈しました。

一九八四年にこの芝居と出会って以来、ファイナダー越しの佐藤氏の視線がとらえた農村舞台の記録は、作品「残生」として東京・大阪・ニューヨーク・チューリッヒなど、国内外の展覧会で発表されてきました。作品集『残生 A Moment of Life』の中で、氏は、「人形達の つかの間の、生きた様子を、私ので、作爲とか、テクニクとかではなく、人形達の息使いを、感じるままに、シャッターを、押すと言う作業の中で、生まれた作品」と述べています。

本展では、人形とそれをめぐる人々、舞台や楽屋の様子など、地元の徳島以外では未公開の貴重な作品を中心に、「残生」の作品も一部展示します。また、センター所蔵の「かしら文庫」から、関連する資料も紹介します。ぜひご覧ください。

\*本展示は、二〇二二年十二月三日〜十八日に神戸市立須磨離宮公園和室で開催した特別展示の再展示です。会場の都合によって、会期中に一部作品の入れ替えを行います。



楽屋の様子



「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段（勝浦座：故倉橋春一氏）

## 古典芸能研究センター蔵「かしら文庫」について

日本各地に伝わる操り人形と人形座（人形芝居を伝承・上演する一座）に関する歴史的研究の専門家であった故加納克己氏（一九四四〜二〇二〇）が、自らの研究のために調査・収集した資料群。各地の人形浄瑠璃や人形のかしら（頭の部分）に関する記録と文献資料約三八五〇点で、二〇二二年六月、ご本人より本学に寄贈された。著書に『日本操り人形史―形態変遷・操法技術史』（二〇〇七年、八木書店）。

